

談天

DANTEN



弦卷 伸

一般社団法人東北経済連合会 副会長
環日本海経済交流委員会 副委員長

山に魅せられて

平成28年11月1日、酒田商工会議所臨時議員総会において、第20代会頭に選任されました。酒田商工会議所は、明治30年4月、全国で52番目の商工会議所として設立され、今年120周年を迎えます。人間の年齢に置き換えると「大還暦」。ここに至るまでには、日清・日露の戦争や第一次・第二次世界大戦、自然災害や経済恐慌など、山あり谷ありの困難な事柄の多い、長い年月であったであろうと想像されます。そのような環境下でも多くの先達が、勇気を奮い、活発な経済活動を積み重ねながら、今日の酒田へと歴史をつないでおります。

酒田は、昭和51年10月に大火に見舞われました。私の職業人としての歩みは、大火を契機に卸業団地の形成、給食センター業務、リネン事業と、本業である衣料品の卸売販売など先代の仕事を引き継ぎ、現在に至っております。

さまざまな仕事に忙殺されるなかで「山との出会い」は、いつしか心のリフレッシュに欠かせないものとなりました。

酒田は、江戸時代から「西の堺、東の酒田」と称され、北前船などの舟運で栄えた商都です。コメどころとして庄内平野を潤す最上川の河口に位置し、海拔0メートルから2,236メートルの独立峰・鳥海(ちょうかい)山の裾野に広がる伏流水が、豊かな恵みを与えています。また、山岳信仰で有名な羽黒山・月山・湯殿山を総称する出羽三山、さらには、新潟県にわたる朝日連峰と山々が織りなす四季の顔。山懐にいだかれて清流に遊ぶ溪流釣りや、パウダースノーの雪原をキャンパスに、雪煙を上げながら描くスキーの軌跡。御来光を求めての山頂でのキャンプ。夜間には、日本海沖で操業するイカ釣り船団の漁り火が美しい。静寂と動物の気配が五感を研ぎ澄ませる。御来光に鳥海の頂きが浮かび上がり、鳥海山の影が日本海に浮かぶ「飛鳥(とびしま)」まで延びる「影鳥海」は、巨大なキャンパスに描いた力強さを感じさせます。そして湧き水でいただく一杯のコーヒー。そこに至福の一刻があります。自然に対する畏敬の念が生じ、自然の恵みに感謝の気持ちが湧いてきます。

平成28年9月9日、鳥海山・飛鳥が日本ジオパークとして認定を受けました。現在、ガイド2期生の育成が図られておりますが、大地や人の歴史、文化や生命力の躍動など鳥海山・飛鳥が持つ魅力を、各地からの観光客の皆さまに楽しんでいただければ幸いに存じます。

酒田は、地名に『酒』という文字があるとおり、「コメと酒」は当地を代表する産物です。海の幸、山の幸、そして里の幸は酒文化と相まって、和食とフランス料理が競い合う「食文化の街・酒田」を育んできました。山やスポーツで得られた心地よい疲労感を、一杯の盃と肴が明日の英気へと誘ってくれる酒田です。

(酒田商工会議所 会頭・つるまき しん)